

ジュニア五輪目標

アルペン競技に取り組む塚沢小の天方峻人君(5年)は、市スキー連盟ジュニア競技部に所属し、トップレベルの大会で活躍する選手育成を目指す「ぐんまスーパーキッズプロジェクト2014」の指導も受ける。「今シーズンはJOCジュニアオリンピックカップ出場が目標」と意気込む。兄の悠人君の影響で3歳からスキーを始めた。保育園の年長時に初出場の大会で、小学生に交じってのエントリーながらも7位入

賞。競技の面白さを知った。現在はエキスパートコースを滑走し「ターンが多い方が好き」と笑顔を見せる。昨年は県のチルドレン大会、小学生総体でそれぞれ準優勝を果たした。課題は、ターンの時に体が外に開いてしまうこと。意識して練習に取り組んだところ「徐々に直ってきた」と手応えを感じている。ジュニアオリンピック出場を目指し「大会で着実にポイントを獲得できるように頑張りたい」と前を見据える。

市スキー連盟ジュニア競技部

天方 峻人君 (塚沢小5年)



ジュニアオリンピック出場を目指す天方君



全国中学大会(全中)出場を目指す高柳さん

市スキー連盟ジュニア競技部

高柳 万葉さん (前橋一中1年)

全中出場へ頑張る

市スキー連盟ジュニア競技部に所属する県の強化選手、高柳万葉さん(前橋一中1年)は、アルペン競技のジャイアントスラロームを得意としている。

スキーを始めたのは3歳の時。母親の美恵子さん(49)が「冬に楽しめるスポーツをさせよう」と、父親の昌弘さん(50)と一緒にゲレンデに出掛けた。

「お父さんに抱っこされて滑った」記憶がかすかに残っている。「雪が好きだったのでスキー場に行くのは抵抗なかった」そうで、親戚の弘士さん(77)に競技スキーを勧められ、京ヶ島小3年時にジュニア競技部に入った。

5年のときは「急斜面が怖かった」ものの、6年になると「みんなができるなら私も

できる」と気持ちを奮い立たせ、急斜面での恐怖感を克服。県スポーツ少年団のジャイアントスラロームで頂点に立った。

強化選手となり、メンタルトレーニングも経験。「勝った(優勝した)自分をイメージして競技に臨めるようになった」と選手としての意識も向上している。

尾瀬戸倉ジュニアカップチルドレン競技会が10日、県中体連は13、14日に控えている。中体連ではジャイアントスラロームで「全国中学大会(全中)出場」を目標に掲げている。

ワールドカップ(W杯)や五輪出場も憧れるが、「とにかく中学の3年間は競技と勉強を精いっぱい頑張りたい」と力を込めた。

冬も楽しもう



ちびっこに無料レッスン

県スキー場経営者協会(星野寛会長)は3月8日の9時30分~12時、県内14のスキー場で「ちびっこスキー・スノーボード教室」を開く。小学1~3年生を対象に、初心者とターンができる子どものクラスに分けて無料レッスンを行い、リフト1日券やレンタル用具(ウェア除く)料金も無料。

希望者ははがきに住所、氏

名、年齢、電話番号(保護者の携帯も)、人数、スキーかスノーボード、希望エリア、用具のレンタル有無(身長、足のサイズ)、保護者氏名を明記して、同協会(〒371-0026 前橋市大手町2-1-1 群馬会館3階)へ申し込む。31日必着。

エリアは水上、吾妻、利根・沼田の3カ所で、合計198人を募集する。各スキー場の募集人数などの詳細は、県観光物産国際協会のホームページに掲載している。県スキー場経営者協会(☎027・243・7273)。

本格的なスキーシーズンがやって来た。県内のスキー場は良質な雪にも恵まれ、滑るには好条件。それぞれのスキー場は趣向を凝らし、誘客に力を入れている。高崎市民も家族やグループ、カップルなど大勢がスキーを楽しみ、競技部門ではジュニア選手も力を付けている。

ノルン水上

開業20周年を迎えたノルン水上スキー場(みなかみ町寺間、☎0278・72・6688)は、記念スペシャルイベントとして「隠された100万円を探せ!」というイベントを開催している。子どもも大人もわくわくするような雪遊びの場「ノルンみなかみスノーランド」(入場料1000円)もオープン。そり遊びな

スキー、スノボ特集

毎日どこ